

## 自由論題 7 「資本市場・金融市場」

### 報告 2

齋藤純 (アジア経済研究所)

「湾岸アラブ諸国と労働者送金受入国における金融市場の連動性」

#### Stock Market Contagion thorough the Remittance: the Experience of the GCC, Asia and Arab Countries

湾岸アラブ諸国（サウジアラビア、クウェート、アラブ首長国連邦、カタール、オマーン、バハレーン）は石油依存経済からの脱却と経済の多様化を目指すため、株式市場の育成を重要な政策課題としてきた。湾岸アラブ諸国では株式市場が依然として未発達であり、経済発展のための障害の一つとなっているからである。

しかしながら、中東北アフリカ地域に視野を広げると、湾岸アラブ諸国の企業と株式市場の動向が、他の中東北アフリカ諸国のファンダメンタルズに与える影響力が高まりつつある。2000年代以降の原油価格の高騰による湾岸アラブ諸国経済の拡大と、それを背景とした湾岸アラブ諸国企業の成長が、周辺の中東北アフリカ地域向けの資本流入を促してきた。特に、外資導入に積極的なエジプト・ヨルダン・モロッコに対しては、湾岸アラブ諸国からの直接投資が急増しており、受入国の企業活動だけでなく雇用創造に大きく寄与している。

また、湾岸アラブ諸国は、稀少な国内労働力を補うため、外国人労働者市場として拡大しており、国際的にも重要な労働者送金の供給元になりつつある。とりわけ近年では、南アジア諸国、フィリピン、インドネシアなどから湾岸アラブ諸国へのトランス・リージョナルな労働移動が盛んになっており、労働力供給国への労働者送金総額のなかで湾岸アラブ諸国から送られる割合が大宗を占めている。

これらの湾岸アラブ諸国と密接な経済関係を持つ諸国では、直接投資や労働者送金などの資金移動を通じて、湾岸アラブ諸国経済の変動の影響を受けやすくなっているのではないだろうか。

本研究は、国際資金移動を通じた湾岸アラブ諸国市場と関係国市場間の連動性について検討する。具体的には、2000年代を対象期間として、湾岸アラブ諸国と、湾岸アラブ諸国からの直接投資受入国、労働者送金受入国の株価データを用いて、株価の連動性についての分析を行う。